

いのちの里京都村×象印

みまもりほっとライン「社会実験」実施報告書

NPO法人いのちの里京都村（以下、京都村）は、「過疎化・高齢化集落における重要課題解決に向けた社会実験」事業（京都府と公益財団法人京都府市町村振興協会の地域交響プロジェクトに採択された事業）など様々な活動を府内の3地域で取り組んでいます。そのうちのひとつ、福知山市毛原地区の13世帯において、象印の「みまもりほっとライン」を活用して村民同士の見守りの仕組みを構築するために、令和2年2月1日から2月29日の1ヶ月間、社会実験を実施しました。

みまもりほっとラインは、ご高齢者がポットを使用するとそのご子息などメールの送り先として登録しているスマホや携帯、PCへポットの使用履歴がメールされる仕組みで、無事に元気で生活（行動）していることが、さりげなくわかるシステムです。今回のような山間の村でも、携帯電話が使用できるのであればどこでも使用できるのが大きな特徴で、毛原の自治会長が村民13世帯のメール受信者となり、各々の安否が把握できるというもの。村民同士もメルアドを登録すれば、相互確認もでき、遠く離れて暮らすご子息からの確認もできます。

今回、象印は13世帯すべてにモニタリングとして無償にて1ヶ月の試験導入をさせて頂きました。その使用頻度の個人差はあるものの、毎日規則的にご使用されていることがわかり、この規則性に変化、例えばしばらく使用していない、朝電源を入れるのが極端に遅いなど、普段と使用上の違いが見えたときに電話をするなど、大事に至る前に確認ができ利点も大きいと評価頂きました。

今後の展開としては、年内に京都村が各地域のまちづくり組織をとおしてこの結果を京都府へ報告し、引き続き来年より2年間、必要とされる世帯に絞り込んで導入することとなりました。また、残りの2地域(京丹後地区、日吉)には、来年度以降モニタリングの導入をしていく予定です。

昔は雨戸を開ければお隣さんの顔が見えるという、自然とコミュニティが出来上がっていた村落。高齢化が急伸し、空き家も増えてきている中、お隣さんの顔も見えないという村の構造に大きな変化が起き始めています。「電話を掛けるほどではないが、顔が見えないので心配。」老老介護も顕著になっている中、日常生活に溶け込んでいる製品により、さりげなく安否確認ができるみまもりほっとラインを、今後も行政や自治体と一緒に、社会貢献の一助になればと日々活動を続けて参ります。本件に関してご相談ご質問のある方は、是非下記までご連絡下さい。

○みまもりほっとライン本件お問合せ先：象印マホービン(株)本社 06-6356-2502 担当:樋川(ヒカガ)





地方自治体との取組み (事例)

2020年2月1日～2月29日

京都府福知山市大江町毛原×NPO法人「いのちの里 京都村」

福知山大江町毛原 アクセスとロケーション

